

京都府立医科大学小児外科では、以下の研究を開始しました。

「先天性横隔膜ヘルニア剖検症例の解析による胎児治療の開発」
(京都府立医科大学倫理審査委員会承認)

研究期間 : 承認日～平成 38 年 3 月 31 日

研究責任者 : 田尻 達郎

先天性横隔膜ヘルニアは新生児疾患の中でも救命率が低い疾患でしたが、様々な治療法の開発により、その救命率は約 80%にまで達するようになってきています。しかし、依然として約 20%の重症症例が治療の甲斐なく命を落としているのが現状です。これには肺の低形成が大きく関わっていることが知られています。現在、胎児の状態から治療することで肺成熟を促し、出生後の重症度を下げる試みが行われていますが確実なものはまだありません。不幸にして亡くなられた患者様で、亡くなられた後に病理解剖を施行させていただいた方の肺組織を調査することで、胎児治療につながる要素を検索することがこの研究の目的です。

亡くなられた患者様で、御両親に病理解剖の承諾をいただいた方の組織や生前の血液検査のあまり検体などを使わせていただき、肺低形成の要因や胎児治療に関する因子の研究を行います。

今回以下の基準に該当する方を対象者とさせていただきます。

2000 年 1 月 1 日以降、先天性横隔膜ヘルニアで亡くなられ、御両親に病理解剖の同意いただいた患者様。

当院での治療経過の情報や、検査、病理解剖時に採取された組織、検体の一部を研究に用いるため、対象となる患者様の御両親に余分なご負担をおかけすることはありません。また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、お名前、生年月日、住所などの個人情報にかかわるデータは一切使用いたしません。

上記の研究に組織および診療情報を使用されることに同意されない患者様の御両親は、平成 37 年 12 月 31 日までに下記にご連絡くだされば、解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも、患者様の御両親が不利益を被ることは一切ありません。

研究対象者の方に関しては、本研究に関する資料をご希望があれば閲覧していただくことが可能です。担当者にお知らせください。また上記研究に関して、ご不明の点がございましたら、いつでもお問い合わせください。

京都府立医科大学大学院小児外科学

電話番号 075-251-5809

担当者名 古川泰三